

太田市立九合小学校いじめ防止基本方針

第1 目的

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。

いじめが行われず、すべての児童が安心して教育活動に取り組むことができるように、保護者や関係者機関との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組む。

第2 学校の実態把握

いじめは、大人の目の届きにくいところで発生しており、学校組織として早期発見に取り組むとともに、家庭・地域と連携して、以下の取り組みに沿って、実態把握に努める。

- 児童の生活の実態を把握するための取り組み
- 児童の心身の状態及び人間関係を把握する取り組み
- 学校生活調査によるいじめの実態を把握する取り組み
- 児童一人一人に声をかける取り組み
- 保護者と情報を共有する取り組み
- 地域と連携する取り組み

第3 いじめ防止の取り組み（未然防止）

1 授業改善に関する取り組み

- ねらいの達成に向けて、すべての児童が活動や発言を通して活躍する、児童中心のわかる授業を行うことを通して、充実感や満足感を味わいながら学力を身に付ける。
- 学習のルールや生活のルールをつくり、それに基づいて学習や生活をするを通して、基本的な学習習慣や生活習慣を形成するとともに、規律正しい態度を育成する。
- 教師は、一人一人のよさや進歩の状況をとらえ、賞賛するなど、児童を大切にし、自己肯定感を高めるようなかわりをする。

2 児童生徒の友人関係・集団づくり、社会性育成などを目的にした取り組み

- 授業中や給食、清掃、休み時間等、児童が学校で過ごすすべての活動において、互いのよさを認め合える温かい学級・学校の雰囲気づくりを進める。
- 人権教育の全体計画や年間指導計画の見直し・改善、活用をとおして、授業や学校行事等と人権教育との関連を図りながら指導を進める。

3 いじめに関する学習に関する取り組み

- 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて、規範意識、友情、思いやり、寛容、誠実、公正公平、親切、勇気等、いじめの未然防止に関連した道徳的価値について学び、道徳的実践力を育成する。
- 学級活動において、人間関係の問題を取り上げ、いじめの未然防止、及び解決の方法等について話し合い、いじめをなくしていこうとする実践的な態度を育成する。

4 いじめをなくすための児童会の取り組み

- 月別にいじめの防止の目標を設定し、それに基づいて啓発を行う。
- 学校や家庭、地域の様子を、掲示物やたより、放送等を用いて発信する。
- あいさつ運動の強化・充実をする。

5 保護者や地域に対する啓発の取り組み

- 学校（学年・学級）だよりをはじめとする各種たよりやWebページを活用して、保護者や地域へ発信する。
- 保護者の他、PTA本部役員会や学校評議員会、区長会、民生児童委員会等と、児童の様子について、定期的に情報交換を行う。
- 保護者や地域住民が相談や情報提供を円滑に行える関係を構築する。

第4 早期発見の取り組み

1 児童の些細な変化に気づく取り組み

- 毎月実施する学校生活調査をもとに、児童一人一人の思いをくみ取る。調査は「無記名式」で実施し、詳細な情報を得るようにする。
- 児童の休み時間や放課後の活動の中で児童の様子に目を配り、個人ノート や日記などから交友関係や悩みを把握したりする。また、チャンス相談の他、休み時間や昼休み、放課後等の接する機会に、児童の気になる様子に目を配る。
- 廊下やトイレ、階段等の校内巡視、休み時間や昼休み、放課後の校内巡回等、多くの教職員が様々な教育活動をとおして児童に関わることで、複数の教職員の目によるいじめ発見の態勢を強化する。
- 保健室を利用する児童との会話の中で、児童の様子に目を配るとともに、いつもと様子が違う場合は機会をとらえて、悩みを聞く。

2 気づいた情報を確実に共有する取り組み

(1) 報告・連絡・相談の徹底

(2) 校内生徒指導体制の構築

- 生徒指導主任や各学年生徒指導担当を中心に、月に1度の生徒指導部会、職員会議、C4 t h等の場で、定期的に情報交換や協議を進める。
- 情報が集まるシステムとして、いじめを含む生徒指導上のすべての情報は、教頭、教務主任、学年主任等と連携し、最終的に生徒指導主任が集約できる体制づくりを徹底する。
- 定期的な情報交換の場の設定
 - ・運営委員会（毎月第1月曜日）の開催
 - ・生徒指導（教育相談）委員会（毎月第4火曜日）の開催

3 情報に基づき、速やかに対応する取り組み

(1) 当該児童の学年や生徒指導部が連携した聞き取り等の直接的な実態調査及び教育相談

- 当該児童及び関係する児童に対する実態調査及び教育相談
- 担任及び学年主任、生徒指導主任、S C等による保護者への直接的な実態調査及び教育相談
- 関係機関（太田市教育委員会・東部児童相談所・群馬県総合教育センター等）と連携した教育相談

第5 いじめに対する措置

1 いじめの発見から解決までの指導の流れ

(1) 情報を集める

○いじめと疑われる行為を発見した場合は、その場でその行為を受け止め、職員室の教員に連絡をする。暴力を伴う場合は、複数の教員が直ちに現場に駆けつける。

○児童や保護者から「いじめではないか」との訴えがあった場合は、真摯に傾聴する。その結果を速やかに管理職に報告する。

発見・通報を受けた場合は、速やかに関係児童から聞き取りをするなどして、いじめの正確な実態把握を行い、その結果を速やかに管理職に報告する。

○いじめた児童が複数いる場合は、同時刻にかつ個別に聞き取りを行う。

○得られた情報は確実に記録に残す。

(2) 指導支援体制を組む

○保護者への対応、教育委員会や関係機関との連携。

2 いじめの被害者、その保護者への支援

○事実が明らかになった時点で、速やかに被害児童宅に家庭訪問を行い、把握した事実を正確に伝える。学校として、児童への支援方法や対応の方針を具体的に示す。S Cや信頼できる教職員にいつでも相談できる態勢であることを伝える。

3 加害児童、その保護者への助言

○事実関係を確認後、迅速に加害児童の保護者に連絡し、事実に対する理解を得た上で、学校と保護者が連携して以後の対応を適切に行えるよう協力を求めるとともに、保護者に対する継続的な助言を行う。

○加害児童への指導にあたっては、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。

4 いじめを見ていた児童生徒への働きかけ

○周囲ではやし立てていた者や傍観していた者も、問題の関係者として事実を受け止めさせ、いじめは、学級や学年集団全体の問題として対応していく。

5 関係機関との連携

○深刻ないじめの解決には、太田市教育委員会及教育研究所、太田警察署、東部児童相談所、医療機関等と連携を進める。

第6 いじめ防止対策の組織

1 目的

いじめの未然防止及び早期対応に組織的に取り組めるように、いじめ防止対策委員会を組織する。なお、この委員会は、医師、学校評議員、主任児童委員等、外部の専門家等の参加も可能とする。

2 組織の構成

- ・校長（委員長）・生徒指導主任（副委員長）・教頭・教務主任・教育相談主任
- ・各学年生徒指導担当・特別支援コーディネーター・養護教諭・ＳＣ

3 役割

- (1)校長：全体統括（委員長）
- (2)教頭、教務主任：連絡・調整
- (3)生徒指導主任：議題の提案（副委員長）
- (4)教育相談主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、ＳＣ…支援及び助言
- (5)各学年生徒指導担当…各学年の実態報告及び支援

第7 インターネット上のいじめへの取り組み

インターネット（特に携帯電話・スマートフォン）の危険性を十分に理解した上で、ネット上のトラブルについて、常に最新の動向を把握し、児童の情報モラル向上に努める必要がある。「ネット上のいじめ」を発見した場合は、書き込みや画像の削除等、迅速な対応を図るとともに、人権侵害や犯罪、法律違反等、事案に応じて、警察等の専門機関と連携して対応していくことが必要となる。

1 いじめ防止の取り組み(未然防止)

- (1)情報モラル教育の推進
- (2)講習会等の活用

第8 重大事態への対処

1 重大事態の認識

- (1)重大事態が発生した場合は、速やかにその旨を太田市教育委員会に報告し、組織を設置。事実関係を明確にするための調査を実施する。必要に応じて、被害児童またはその保護者の所見を調査結果の報告に添える。

〈重大事態〉

1. いじめによる児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき（児童生徒が自殺を企図した場合等）
 2. いじめにより児童生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき（不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とし、一定期間欠席しているような場合等は、迅速に調査に着手）
- ※ 児童生徒や保護者から重大事態の申し出があった場合も、重大事態が発生したものとす。

平成26年 3月10日 策定

平成27年 9月 1日 改訂